福祉情報 おきなわ

Vol.136
2011.3.1

作品名:「愛情たっぷり」　撮影:川崎吉正さん（南城市）

目次

- ② 特集「やねだん再生から地域づくりを学ぶ」
- ④ 沖縄県共同募金会ニュース
- ⑤ シリーズ活動最前線
  「おきなわ共育ファンド」
- ⑥ ほっとニュースTOPICS
  - ・第37回沖縄県保育研究大会報告
  - ・名護わかば園が新築移転
- ⑦ ほっとニュースTOPICS
  - ・高齢者虐待・権利擁護研究協議会
  - ・かりゆし美術展、長寿大学校学習発表会
- ⑩ 福祉人材研修センター情報
  - ・宮古・八重山地区福祉・介護人材定着支援モデル事業報告会
- ⑫ インフォメーション、寄付者芳名　他

「福祉情報おきなわ」の作成経費の一部として共同募金配分金を使用させていただいております。

編集・発行
沖縄県社会福祉協議会
沖縄県共同募金会
沖縄県福祉人材研修センター
〒903-8603　沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1
（沖縄県総合福祉センター内）
TEL.098-887-2000　FAX.098-887-2024
ホームページ　http://www.okishakyo.or.jp/

特集

地域の福祉力を高めるセミナー

豊重哲郎氏の講演から地域づくりを学ぶ

過疎集落「やねだん」再生の仕掛け人

平成23年2月2日（水）、沖縄県総合福祉センターゆいホールにおいて、地域の福祉力の向上を目指すことを目的に「平成22年度地域の福祉力を高めるセミナー」を開催しました。当日は、多くの民生委員児童委員をはじめ市町村社協、自治会、福祉施設・団体の役職員、行政職員など350名が参加し、住民の支え合い活動による地域づくりについて学びました。

「みんなが主役、やねだんの地域づくり」
～柳谷公民館のこれまでの取り組みについて～

「父の日」、「母の日」、「敬老の日」の朝、住民たちが集落内放送にじっと耳を傾ける。町外に暮らす子どもや孫からのメッセージを地元の高校生が代読し、集落全体に心温まる感謝の言葉が響き渡る。

母への感謝、祖父への想い、小さな故郷への愛情を住民らで共有し合うひと時。その仕掛け人が、平成8年から柳谷自治公民館館長に就任した豊重哲郎氏である。

就任当時、豊重氏は55歳。鹿児島県の大隈半島中部に位置する鹿屋市串良町の柳谷集落（通称やねだん）では、人口300人、65歳以上が4割の高齢化と過疎化が進む限界集落目前の状況だった。

感動で仲間意識を底上げ

公民館長を任された当初、豊重さんが活力を失った集落を何とかしなければという思いで手がけたのが荒れ地を公園に甦らせるというものだった。予算が潤沢にあるわけでもないなかで、集落で出来ることは、集落でやっていこうと行政に頼らない地域づくりは公園作りから始まった。

豊重さんは言う「初めから住民全員が協力的に作業に参加するものではなかった。そんな時は、命令せず率先して自ら動くこと。」荒れ放題の土地で作業する豊重さんの姿を見て、協力の輪が広がり、半年で「わくわく運動遊園」という自前の公園が出来上がった。その達成感と感動の一体感で仲間意識を底上げできたら地域づくりは成功だという。自分たちで公園を作ったことで住民たちのやる気を引き出すことが出来た豊重さんはその後、休耕地を利用したサツマイモ栽培や土着菌づくり、土着菌を活かした農作物や焼酎作りと独自の商品作りで自主財源を増やしていった。

▲地域づくりに何が大切かを熱く語り伝える豊重氏

地域づくりにタイムリミットはない

様々な取組みで成果を出し、収益金で高齢者のための緊急警報機を設置したり、子ども達には無料の寺子屋塾を開き、ついには住民にボーナスとして現金が支給されるなど、やねだんの画期的な取組みは、全国各地から注目を集めた。

豊重さんは地域づくりに必要なキーワードに「自主」を掲げ、自主的な住民の総参加と自主財源が重要だという。総参加とは、汗を流し共に労働する「結」と、動けなくてもアイディアや提案なら出来るという「知恵」による参加方法がある。

「やれる人たちだけでやったところで、土台は出来上がらない」と強調する。

地域づくりを「あわてるな、近道するな」と自分自身に言い聞かせ、例え1％の反目者がいたとしても放っておかず、彼らへの働きかけをあきらめない。

「円満な人づくりの輪は、説得ではなく納得。納得させるのは感動しかない」として、心に訴える方法を考える。

文化向上と子どもがキーワード

また、110日提言として、地域づくりにおける子どもたちの重要性を豊重さんは訴える。土日や祝日などの休校日が年間110日ある。つまり、この110日は子どもたちが地域にいるということ。小中学生が地域づくりの原点として、本物の感覚と意志力

が育まれる成長時期の子どもたちへの交流の場や地域活動の場を設ける。親や祖父母へと子どもを軸に大人への波及効果も期待できるところが子ども活動の強み。

そして、もう一つの秘策は文化の向上。過疎化を食い止める対策として、集落の古民家を再利用し「迎賓館」と名づけ、移住者を募るも、条件にアーティストと限定。移住してきた画家や写真家、陶芸家たちの創作活動と住民生活が交流し、集落の一部にギャラリーや美術館が点在する集落からは、地域の豊かさや人びとの心の潤いが垣間見える。

こんな所に住んでみたい、そう思う人が増えることで、やねだんの人びとに誇りが生まれる。

豊重さんが14年の歳月をかけて再生したやねだんの事例から、住民を動かすためのヒントを数多くもらった講演であった。

沖縄の小地域福祉活動の現状と課題
～小地域福祉活動実態調査報告をもとに～

4割の世帯が単身世帯に

無縁社会の進行に大きく影響する要因として、少子高齢化とともに単独世帯の増加があるが、国立社会保障・人口問題研究所によると、単独世帯は二〇三〇年には約四割の世帯が単独世帯になると推計されている。

小地域福祉活動に取り組む社協8割

平成21年度の本会調査によると、41市町村社協のうち、地域ネットワーク活動、ふれあい・いきいきサロン活動、その他の小地域福祉活動のどれか1つでも取り組んでいる社協が34社協(82.9%)となっている。

調査報告を行う
神里博武氏

そのうち小地域ネットワーク活動は12社協で取り組まれ、837ネットあり、ふれあい・いきいきサロンは26社協で409サロン、ミニデイサービスは22社協、429ヶ所であった。

取り組みが進むふれあいサロン

沖縄にはほとんどの地域に字・自治公民館があることも影響し、ふれあいサロンやミニデイは多くの地域で取り組まれている一方、小地域ネットワーク活動は特定の市町村に偏り、低調である。今の無縁社会を考えた時、小地域ネットワークの取組みの充実強化が不可欠である。

小地域ネットワーク活動の課題

高齢者や障害者と活動の対象者に広がりを見せているが、子育て支援のネットは少なく、児童虐待問題の深刻化を考えると地域の福祉課題に応えるネットワークの構築が必要である。

ふれあいサロン、ミニデイの課題

ボランティアの育成や看護師等の専門ボランティアの確保やマンネリ化する活動内容の見直し、男性参加者の拡大などが課題としてあがっている。

これからの小地域福祉活動を進めるために

小地域福祉活動を通して、地域住民の絆が強化され、福祉コミュニティの形成が図られることが調査結果からも分かる。「助けられる人」、「助ける人」の区別が無い「お互いさま」の精神がこれからの福祉であり、ある程度の「おせっかい」は必要。

ことば解説

小地域福祉活動とは
自治会・字レベルの小地域で地域ボランティアが主体となって展開している福祉活動。小地域ネットワーク活動、ふれあい・いきいきサロン活動が主である。

小地域ネットワーク活動とは
支援を必要とする個人や家族の安否確認や見守り活動を住民やボランティア、在宅福祉サービスの専門家等の協働により行う活動。自宅を訪問して支援する訪問型。

ふれあい・いきいきサロン活動とは
高齢者、障害者、子育て中の親等とボランティアが公民館や集会所、個人の家などに一緒に集ってレクをしたり食事をしたりしてふれあう活動。

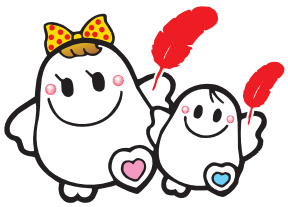
平成22年度 歳末たすけあい運動
県民皆様の温かい善意 ありがとうございました

毎年、12月1日から31日までの間に実施しています歳末たすけあい運動につきましては、平成22年度も「みんなでささえあう あったかい地域づくり」をスローガンに、沖縄県共同募金会及び各市町村共同募金委員会（支会・分会）、ＮＨＫ沖縄放送局、沖縄タイムス社、琉球新報社、関係金融機関等の皆様にもご協力をいただき一斉に展開されました。

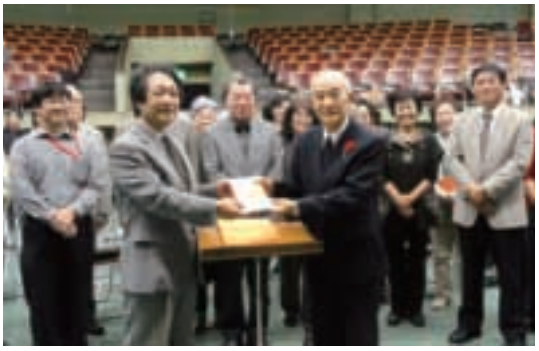
沖縄県共同募金会に集まった寄付金品は、四百三十三万円余（1月28日現在）よせられ、12月27日に沖縄県共同募金会新垣雄久会長より各団体へ交付されました。また、受配者を代表して、たんぽぽ福祉作業所の櫻木かほる代表理事よりお礼の挨拶がありました。

今年も、歳末運動の趣旨にそって小規模作業所等（52ヶ所）と、県内８離島町村の高齢者・障害者及び要援護世帯の方々に配分いたしました。

関係機関の皆様にもご協力いただき心より感謝しております。ありがとうございました。



© 中央共同募金会



▲歳末たすけあい贈呈式（メサイア演奏会）

ありがとうメッセージ

●団体名　特定非営利活動法人　みるく
●事業名　車両整備事業（訪問入浴車）
●配分額　3,000,000円

この度、平成20年度の共同募金配分金をいただき本当にありがとうございます。

皆様からいただく、大切な寄付金で老朽化した訪問入浴車を買い換えることができました。我社では寝たきりの高齢者、障害者、終末ケアの入浴を行っています。今後も入浴を楽しみに待っている利用者に安心、安全、快適にサービスが提供できるように頑張っていき大切に使わせていただきます。

災害義援金へのご協力 ありがとうございました

去る10月20日の記録的な大雨により発生しました「10月20日の奄美地方大雨災害」義援金に対して、本会がその支援を呼びかけましたところ、貴殿（会）を始め多くの県民から心温まる多額の浄財をお寄せいただきました。

皆様からお寄せいただきました義援金は、被災地の受入口座へ下記のとおり送金いたしましたことをご報告申し上げます。

なお、お寄せいただきました義援金の配分は、鹿児島県・日赤鹿児島県支部・鹿児島県共募などの機関で構成する義援金配分委員会で取りまとめ同委員会の決定により被災対象地域に配分されたとの報告をいただいております。

誠にありがとうございました。

1．沖縄県共同募金会取扱額
　30件　1,061,799円

2．送付先及び送金額
　鹿児島県共同募金会
　1,061,799円

沖縄県共同募金会
TEL 098-882-4353
FAX 098-882-4270
http://www.okishakyo.or.jp/html/kyoubo/

シリーズ 活動最前線

子育て中の母親の「働きたい」をサポート
おきなわ共育ファンド（那覇市）

ジョブトレーニングの場として Egg Deli をオープン

二〇〇八年八月、子育て中の女性の就労相談とジョブトレーニングを一体的に行うことを目的としたお弁当屋「Egg Deli（エッグデリ）」が誕生した。おきなわ共育ファンドのＮＰＯ活動の第一歩である。

出産・子育てによって一旦仕事を辞め、社会から一時的に離れた女性たちの再就職への道のりは、資格の有無にかかわらず、決して楽ではない。保育園へ預ける子どもに短時間保育の慣らし保育があるように、大人にとってもいきなりのフルタイムではなく、徐々に仕事のボリュームを増やしながら社会復帰できるような仕組みがあればいいなと、代表の田中さんは考え、お弁当屋を開いた。

「ここで社会復帰の訓練を積み重ながら一般就労にステップアップして欲しい」とEgg Deliでは、雇用契約を最長6ヶ月と定めている。「1ヶ月で再就職して巣立って行ってもいい」という田中さんは、自身のこれまでの経験を活かして、働く者としての姿勢や責任感、履歴書の書き方、面接での自己アピールの仕方などについても細かく相談を受け、アドバイスを行う。

支援する側、される側が共に育つ おきなわ共育ファンドのこれから

就労支援と人材育成を柱に活動してきたおきなわ共育ファンドは、今年4月から那覇市ＮＰＯ活動支援センターの指定管理者に選ばれた。

これまでの活動の中で、人材や資金の確保などの課題にぶつかり、問題を解決してきたおきなわ共育ファンド。「自立した活動が出来るように、こんな支援機関があったらいいなと思っていたので、他にも同じように悩みながらＮＰＯ活動をしている人や団体がお互いに育つようなセンターに出来れば」と新たな活動に意欲を燃やしていた。

おきなわ共育ファンド
住　所／那覇市首里汀良町2-21
電　話／080－3222－5405
メール／info@tomoiku.eek.jp
ブログ／http://mamacafe.ti-da.net /

安心を支えます
http://www.fukushihoken.co.jp
ボランティア活動保険
日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

特長
●活動場所と自宅との往復途上の事故も補償
●熱中症（日射病・熱射病）による障害も補償
●ボランティア自身の食中毒や特定感染症も補償
●地震など天災によるケガも補償（天災タイプご加入の場合）

年間保険料　Aプラン…280円　Bプラン…420円　天災タイプもあります

※各プランの補償金額、補償内容などの詳細は、専用のパンフレットをご用意しておりますので、取扱代理店にお問合せください。

ボランティア行事用保険
地域福祉活動の一環として行うボランティア活動に関する各種行事におけるケガや賠償責任を補償！

福祉サービス総合補償
ヘルパー・ケアマネージャーなどの活動中のケガや賠償責任を補償！

送迎サービス補償
送迎・移送サービス中の自動車事故などによるケガを補償！

お申込み、お問合せはあなたの地域の社会福祉協議会へ
団体契約者　社会福祉法人 全国社会福祉協議会
この保険は、全国社会福祉協議会が保険会社と一括して契約を行う団体契約です。

取扱代理店　株式会社 福祉保険サービス
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL:03(3581)4667　FAX:03(3581)4763
〈引受幹事保険会社〉日本興亜損害保険株式会社

ほっとニュース TOPICS Vol.136

第37回沖縄県保育研究大会を開催

第37回沖縄県保育研究大会（主催・沖縄県社会福祉協議会）が、去る1月29、30日の2日間、沖縄コンベンションセンターのほか、那覇市等の会場7カ所で開催され、県内の保育関係者約1、600名が参加した。

「すべての人が子どもと子育てに関わりをもつ社会の実現をめざして」をテーマに、大会初日は、沖縄県福祉保健部青少年・児童家庭課の田端課長から沖縄県の新たな子育て支援制度についての説明や国保・健康増進課の比嘉主任技師より県内の乳幼児のむし歯の状況について報告がされた。

▲講演を行う久高将和氏

また、大会宣言が採択され、「子ども・子育て新システムの基本制度要綱案」など新たな次世代育成支援のための制度が、子どもの最善の利益を尊重するものとなるよう訴えていくことが確認された。

講演では、写真家でNPO法人国頭ツーリズム協会顧問の久高将和氏より「ニライへの手紙～沖縄やんばるの自然と文化～」と題して講演が行われた。久高氏は、レイチェル・カーソンの著書より「『知る』ことは『感じる』ことの半分も重要ではない」という言葉を引用し、「子どもは可能性を秘めた宝であり、自然の遊びの中でいろいろな発見をするのでその感性を大切にしてほしい。」と話された。

二日目は、「家庭との連携による食育の推進」など、テーマごとに7つの分科会に分かれて各保育所の実践報告やグループ討議が行われ、保育技術の向上や保育所運営の課題などについて研究討議を深めることができた。

▲第３分科会「保育者の資質向上を図る」の様子

知的障害児施設 名護わかば園 が 新築移転！

去る1月21日（金）、名護市宇茂佐地区に新築移転した知的障害児施設名護わかば園（社会福祉法人名護学院）の内覧会・落成祝賀会が名護市にて開催された。

知的障害児施設名護わかば園は、昭和52年、名護市瀬嵩の地に設立され、建築以来30年余りが経過。児童への安心ある生活保障と生活のしやすさの観点から、今回宇茂佐の地へ新築移転することとなった。

新たな地である宇茂佐地区は名護市街地にも近く、付近には名護特別支援学校や北部農林高校があり、今まで以上に様々な機関との交流が期待される。

▲新築移転した名護わかば園

新しい住所と連絡先

住　　所	名護市宇茂佐232-1
電話番号	0980-43-0057
FAX番号	0980-54-2505

児童養護施設へ チャリティプロボクシング大会 入場券贈呈

来る4月2日に県立武道館にてチャリティプロボクシング大会「亀田三兄弟　全国行脚　壱ﾂﾞ沖縄～新風～」が開催されるのを受け、2月23日、児童養護施設の児童へ夢と希望を与えたいと、亀田興毅氏らから入場券の贈呈が行われた。

プロボクシングの試合が生で観られるということで、子どもたちは胸を膨らませている。

◀児童とミット打ちを行う興毅選手

各施設長へチケットを贈呈する大毅選手▶

地域における高齢者虐待・権利擁護研究協議会

平成23年2月4日（金）宜野湾市にあるホテル「フェストーネ」にて「地域における高齢者虐待防止・権利擁護研究協議会」を開催し、約90名の方が参加。講師には土屋幸己氏（静岡県富士宮市　福祉総合相談課参事・地域包括支援センター長）を招聘した。

基本的理解とネットワークの構築の重要性

前半の「高齢者虐待防止及び権利擁護ネットワークの構築について」では、高齢者虐待防止法の成り立ちや定義、市町村の役割や事実確認のポイント等具体的対応に必要な基本的理解について講義がおこなわれた。

日頃から諸関係機関と信頼関係を培い、ネットワークを構築することが大切であると強調。地域ケア会議では、諸関係機関が共通認識を持ち、相互の役割分担や連携機能を高められることも話された。

アセスメントに基づいた地域ケア会議の開催

土屋氏はアセスメントシートを活用し、集約した情報を整理することで的確にアセスメントできること、緊急度の判断及び対応方針は所属の上司を含めチームで確認することが大切であると話された。

そして、各課題の充足度、状況や課題に変化が生じていないかを評価し、課題の見直しや今後の対応方針について評価することが大切であることを強調し、富士宮市の地域包括支援ネットワークの具体例をもとにその機能や構築方法について説明があった。

事例を通して具体的展開を学ぶ

後半の事例検討会では、通報から介入までの各段階における対応時のポイントや諸関係機関の役割を細かく解説。事例が展開して行く中で、相談から介入まで関係機関同士の繋がりや対象者の変化が読み取れ、参加者が理解を深めることができた。

参加者の意識高まる

研修参加者から「しっかりとアセスメント力を持たないといけないと身が引き締まる思いで良い刺激を受けた」「緊急対応が必要なケースこそ、シート等を利用し問題・課題を整理することがスムーズで有効な介入に繋がることを認識した」等の声があり、短時間であったが濃縮した内容で有意義な研修となったことが伺えた。

▲講師を務める土屋幸己氏

フォーラム

"新しい公共"とNPO活動の今後を考える

～市民発の新しい公共を創造していくために

開催！

平成22年6月、国は「新しい公共」宣言をまとめました。そこには、これまでの行政主体の公共から、市民、NPO、地域組織、企業、行政等という多様な主体が協働して〝公共〟を創造し、役割を担っていくという新しい社会像が盛り込まれています。その推進施策の一つとして、平成23年度から2年間、総額87億円の予算規模で『新しい公共支援事業』が実施されます。各都道府県に基金（沖縄県は一億七千万円）を設置し、NPO活動の基盤強化を図ることを目的としています。

県ボラセンでは、NPOのニーズにあった効果的な事業が展開されるよう、県内のNPO支援団体と連携し、その一環で、1月21日に、フォーラムを開催しました。基調報告は田尻佳史さん(日本NPOセンター理事・事務局長)、パネリストとして、小阪亘さん（一般財団法人みらいファンド沖縄代表理事）、照喜名通さん（認定NPO法人アンビシャス事務局長）を迎え、NPOをめぐる制度や施策について情報を共有し、今後のNPO活動や支援のあり方を考えました。そこでは、『寄付やボランティア等の市民参加によって組織基盤を強化する』『情報公開や透明性の確保によって信頼を得る』『市民の共感、評価、信頼を得る事業の展開と組織経営』が討議されました。

また、参加したNPO等からは、「行政との協働」について、行政の意識改革を求める意見も出ました。また、対等な担い手であるためには、NPO自身も信頼性や組織力の強化が重要であるという意見や、市民参加に立脚した組織づくり、NPO同士のネットワークの必要性についても、多くの議論が交わされました。

★『新しい公共支援事業』については、内閣府HPを参照

http://www5.cao.go.jp/npc/index.html

第2回 沖縄ねんりんピック かりゆし美術展 開催

高齢者の芸術文化活動における社会参加の促進を目的とした「第2回沖縄ねんりんピックかりゆし美術展」が、平成23年1月20日（木）から23日（日）まで、那覇市にある沖縄県立博物館・美術館で開催されました。

出展作品は、絵画（日本画・水墨画・洋画）、彫刻、工芸、書、写真の5部門で、入賞作品35点を含む合計198点が展示され、どれも高齢者のパワー溢れる素晴らしい作品ばかりで、連日多くの来場者で賑わいました。

▲オープニングセレモニー

初日のオープニングセレモニーでは本会会長あいさつ並びに沖縄県知事からの祝辞があり、出品者代表を含めテープカットを行いました。その後の表彰式では、沖縄県知事賞をはじめ最優秀賞など表彰状の授与が行われました。

また、田中睦治審査員長（沖縄県立芸術大学教授）からは、受賞者の皆さんのさらなる創作意欲を鼓舞する講評がありました。

▲沖縄県知事賞受賞作品

沖縄県知事賞には厳正な審査の結果、表現力や完成度の高さが評価され、絵画（洋画）部門から知念しず子さん（嘉手納町）の「古（いにしえ）は静かなるかな」が選ばれました。

なお、各部門の上位2作品は、来年度開催される第24回全国健康福祉祭くまもと大会美術展へ沖縄県代表作品として推薦いたします。

※原則として各部門の最優秀賞、優秀賞受賞作品を来年度のくまもと大会へ推薦しますが、沖縄県知事賞の出た絵画（洋画）部門については、沖縄県知事賞、最優秀賞受賞作品を推薦することとします。

第２回　沖縄ねんりんピックかりゆし美術展受賞者名簿

賞	部　門	作　品　名	作 者 名	市町村	年齢
沖縄県知事賞	絵画（洋画）	古は静かなるかな	知念しず子	嘉手納町	68
最優秀賞	絵画（日本画・水墨画）	糸満・照屋のカー	荻堂　和枝	那 覇 市	68
	絵画（洋画）	いきものたちの森	吉里　重行	うるま市	62
	彫刻	老人の像	仲村　廣吉	宜野湾市	66
	工芸	面シーサー	又吉　康治	那 覇 市	77
	書	寒山詩	与儀　好子	沖 縄 市	66
	写真	愛情たっぷり	川崎　吉正	南 城 市	65
優 秀 賞	絵画（日本画・水墨画）	サワフジ	宮城　　範	宜野湾市	68
	絵画（洋画）	風化の詩	大城　信利	南風原町	66
	彫刻	文箱	仲村渠孝子	豊見城市	60
	工芸	紅型両面染衝立	喜納　武子	那 覇 市	70
	書	新古今和歌集（抄）	友利　宗一	那 覇 市	68
	写真	雨上り	木崎　　昭	読 谷 村	67
かりゆし賞	絵画（日本画・水墨画）	深山幽居	川端　英助	うるま市	79
	絵画（洋画）	中城城跡	比嘉　永光	宜野湾市	88
	彫刻	文箱	仲松彌三郎	西 原 町	78
	工芸	パッチワーク	仲宗根節子	那 覇 市	83
	書	一花開天下春	上村　昭栄	沖 縄 市	83
	写真	命の誕生	稲福　政吉	那 覇 市	78
奨 励 賞	絵画（日本画・水墨画）	カンムリワシと水牛	白金　　直	沖 縄 市	63
	絵画（洋画）	化粧したカーミたち	金城　清郎	南風原町	76
		花	上地　勝子	読 谷 村	61
		壷屋のスージ小	宮城リエ子	那 覇 市	65
	彫刻	木彫シーサー	賀数　繁二	糸 満 市	64
		２つ引出	兼本　正順	那 覇 市	78
		折り	伊計　昭直	沖 縄 市	76
	工芸	花器	幸地　良丈	宜野湾市	74
		琉歌（対）	幸地　賢造	西 原 町	75
		琉球手まり	金城志津子	那 覇 市	66
	書	曹全碑	照屋　恵峰	西 原 町	68
		寒山詩	宮城　孝子	北中城村	75
		春光	安里　弘子	沖 縄 市	70
		孫過庭の書譜（臨書）	森根　和子	那 覇 市	71
	写真	奮迅の闘い	新垣フミ子	南風原町	67
		郷愁	平良　秋子	那 覇 市	66

▲表彰式終了後の記念撮影（彫刻部門）

▲同世代の作品を前にして熱心に見入る来場者

かりゆし長寿大学校 初の学習発表会を開催！

～学科発表・クラブ活動展示コーナーで盛況～

かりゆし長寿大学校第20期生は、2月8日（火）に県総合福祉センターにおいて、大学校初となる学習発表会を火曜日・木曜日コース合同で開催しました。

まもなく卒業を迎える１８０名の学生が、一年間の学習の成果を各学科にて披露することを目的とし、今年度、3学科制（地域文化・健康福祉・生活環境）を導入したことを機に、これまで、卒業式と同時に開催していた卒業作品展を発展させた企画として、各コース3学科ごとの「舞台発表」「展示」並びに「クラブ活動作品発表」の3部門に分かれて実施されました。

まず、舞台発表の部では、新垣雄久学長による激励のあいさつの後、各コース・3学科がそれぞれプロジェクターで講義風景を投影しながらの「学習内容の紹介」や学科代表による「学校生活の思い出朗読」、学科員総出の「舞台上表現」の3部構成で発表が行われました。

▲講義で作成したエコ作品（生活環境）

▲ＡＥＤの実践を交えた民踊（健康福祉）

「学校生活の思い出朗読」では、朗読する学生から感極まっての涙あふれるシーンも見られる一方で、「舞台上表現」では、民話の読み聞かせやＡＥＤの実演、ダンス、わらべ歌、寸劇、自作ＤＶＤの上映など各学科とも趣向を凝らした内容に、会場にかけつけた多くの講師陣や家族、友人らで会場を沸かせました。

ロビーでは、展示発表が行われ、講義・実習において制作した作品の数々や講義内容を紹介したパネル、写真、壁新聞等が所狭しと飾られて、学習の成果が具体的に見られました。

また、5階の各教室では、6つのクラブ活動（陶芸、書道、園芸、絵画、薬草、写真）の作品発表が行われ、この一年で制作した多くの作品が展示されました。

来場者は、熱心に作者に質問したり、薬草クラブ員手製のサーターアンダギーの試食などを楽しんでいました。

同発表会は、学生が運営委員会を立ち上げ、学生主体で企画立案から準備、設営、運営まで様々な課題を講義終了後の全体での委員会や休日返上の各学科の会議にて協議し、開催に至りました。

学生達は自信に満ちた表情で堂々と発表し、今回、運営委員長を務めた中村昌信さん（健康福祉）の閉会のあいさつのとおり、卒業後はそれぞれの市町村で地域福祉の担い手として、さらなる飛躍を誓った大変有意義な一日となりました。

卒業後もいきいきと活躍することを期待しております。

お疲れ様でした！

▲読み聞かせ「おおきなかぶ」（地域文化）

▲クラブ活動展示風景

▲学生による準備風景

▲舞台発表を終えて（生活環境）

人材育成の取り組み報告 ～一歩一歩を大切に～

去った、1月25・26日に宮古・八重山地区において、福祉・介護人材定着支援モデル事業の報告会を開催しました。

●事業趣旨●

社会福祉・介護施設における人材確保・育成・定着に関する各種支援策について検証を行うため、県内2ヵ所をモデル施設として指定し、労働環境の改善及び職員の資質の向上等のモデル支援策を講じるとともに、モデルケースとして県内の社会福祉・介護施設への周知を図ることを目的とする。

●コーディネーター●

金城隆一（キャリア支援専門員）

●パネリスト●

上原恵利香（知的障害者更生施設グリーンホーム地域支援課長）、砂川盛貞（同施設支援主任）、宮城妙子（特別養護老人ホーム与勝の里介護主任）、仲与根旭（地域支援ホーム津堅憩いの家介護主任）

●コメンテーター●

田中隆雄（北九州市社会福祉研修所主席講師）、江尻育弘（社会保険労務士江尻事務所長）

▲報告会風景

【金城】モデル事業を受けて最初の印象は？

【砂川】事業開始前は外部から人が来るので、監査的なものか内部資料もチェックされるのか等身構えていた。外部講師による研修だったので、不安と期待があった。研修を受けるうちに安心した。

【宮城】最初の印象は面倒だと思った。モデル事業実施前に主任クラスで会議を持ったが、内容についてあまり議論も盛り上がらなかった。

【仲与根】事業を受けて仕事が増えるとの不安があった。でも取り組んでみようとの気持ちはあった。4月に島で研修を受けた。島で講師を向かえて研修を実施するのは、初めての経験だったので貴重な体験だった。ちゃんとした研修講師が来ると聞いていたので、プレッシャーだった。地域の小学校からホワイトボードを借り、研修の準備をした。研修当日は、職員が静かに聞いてくれるか、不安だったが静かに聞いてくれた。

【金城】研修を受ける中で職員の意識がどの様に変わっていきましたか？

【上原】職員間のミーティングの数が増えた。短い時間のミーティングを多く持ち、決めた時間を守るようにした。研修委員会は委員長を設置し中心になる担当者を明確にした。委員長は投票で決めた。各研修も時間内で終わることを意識した結果、研修への参加負担感が減った。研修の準備段階からミーティングを持ち、作られた研修に参加するのではなく自分たちで作った研修に参加する等、意識の変化が出てきた。研修後のアンケート用紙の内容が変わった。研修ではグループワークも取り入れ、議論が活発化するよう工夫している。その結果、職員間のコミュニケーションが以前より活発になった。意思が伝わりにくい相手がいて、田中先生にどの様にその人を変えたらいいのか質問したところ、相手を変えるのは難しいので自分が変わったらどうか、とのアドバイスをもらった。そのメッセージをとても大切にしている。

【宮城】連続して研修を受ける中で、職員の意識が変化した。それまでは自分の業務だけこなしていればよいと考えていたが、全体的に指導、教育する雰囲気に変わってきた。指導する際も、以前は1回教えてわからなければ「もういいや」との気持ちがあったが、今は指導しながら自分達も共に学ぶ姿勢に変わってきた。ＯＪＴも活用し職員で共通認識を持って人材育成に取り組むようになった。ＯＪＴで新人育成の担当も決め指導内容も明確にし、新人からも「安心できる」、「仕事の内容がわかりやすい」、「ずっとこの施設で働きたい」との評価をもらっている。勉強会のテーマも明確になり、自主的に取り組む風土が生まれた。田中先生の研修で、チーム内で能力が低い人を底上げしないとチーム全体がその人のレベルになることを教わり、育成への意識が大きく変わった。

【仲与根】津堅の場合、職員が利用者と同じ島で生活しているため、対応がなれ合いになってし

まう課題があった。研修を通して接遇の意識が変化した。職員は島で生活している人が殆どで、組織に所属して働いた経験がなかったため、急に欠勤したり等、職員としての意識が低かったが、研修受講後は職員の意識が変化した。普段、離島は外部研修に参加しにくい環境にあるが、島で研修を実施してもらいありがたかった。職務会の持ち方が大きく変化した。それまでは、決まった職員が報告のみ行う会議だったが、報告＋評価とその後の対策も会議で話し合われるようになった。職員全体が発言し議論するようになった。ＯＪＴも取り組んでいる。ＯＪＴで課題が明確になった。

【金城】各施設長からのコメントを紹介します。

与勝の里　長浜施設長＝最初はどんな事業か不安だったが、４月の研修以後は職員の意識が変化していった。職員間の支え合いや仲間意識が更に深まっていった。

グリーンホーム　伊佐副施設長＝人材育成について関心があったが、どう取り組んでよいかわからなかった。研修の中で疑問・課題に一つ一つ手をつけていく。職員が具体的に目的意識を持ち課題に向き合っていくことが重要である。

【金城】両施設で自主的に始まった施設間交流について教えてください。

【砂川】何度か一緒に研修を受けていく中で、お互いの施設に関心を抱き、施設見学の話が出てきた。当施設では、利用者の高齢化が進み、環境面や介護面で課題が出てきた。与勝の里さんと交流していく事で、今後の福祉サービスの向上に繋がっていく事を期待。１回限りの見学ではなく、多くの職員が見学体験できるように、数回に分けて実施する。両施設の交流会担当職員が一緒になって、企画していく。（アイデアを出し合う）具体的な例～与勝の里さんから介護技術を習得（職員のスキルアップ）。利用者の処遇面や環境面などを参考に改善点を見出す。将来的には、合同で行事や研修など実施。その他（利用者交流、職場体験、職員の球技大会等）

【金城】人材育成に関する現在の課題、今後の目標や方向性について教えてください。

【上原】会議を持った時、若い職員の意見が出にくい。若い職員が意見を言いやすくするにはどうしたらよいか。職員個々に合わせた、声かけ、コミュニケーションの取り方を模索している。部下同士のコミュニケーションも活発に行ってほしい。主任クラスが中心に１年研修を受け意識が変化した。今後はそれを部下にどの様に伝えていくかが課題である。

【宮城】ＯＪＴを活用することで施設内での課題が見えてきたので、今後も皆で話し合って新人の育成のみではなく、職員全体が向上していく取り組みを行っていきたい。新人に業務を教えながらも、自分達も教わる姿勢を大切にしたい。津堅島の変化（会議の持ち方等）も良い刺激になっているので、そこから学んで会議の持ち方も変えていきたい。

【仲与根】現在は、職員間で教え合う機会がまだ少ないので、今後はＯＪＴを活用し機会を増やしていきたい。現在は、頑張って資格を取っている職員もいるため、資格を取得し指導できる職員を増やしていく取り組みも行いたい。

【金城】コメンテーターからの提言

【田中】去年の３月に初めて両施設にお伺いさせていただいたのですが、堅いというのでしょうか、何をやるのかという警戒感のようなものを感じました。最初はまず自分を知ってもらうことからのスタートでした。自己開示をして、「顔合わせ」から、４月は「心合わせ」が出来るようになりました、お互いに思っていることを自由に言い合える。すると６・８・10の３ヶ月で「力合わせ」が出来ました。人間っていいものですね、顔合わせをして、心合わせが出来て、力合わせ、どうやってＯＪＴを具体的に進めていくか、人材育成進めていくか、定着していくか、そのスキルを真剣にみなさんが勉強されてきたのだと思います。80点の評価を上げていいのではないでしょうか。人材育成はトップの思いが非常に大きいのです。トップが人を作っていく、定着するためにいろんな知恵を絞っていく、この思いがあるというのがずいぶん違います。金は出すけど口は出さないというトップのスタンスが良いですね。職場から盛り上がって、職場の皆さんが考えて、どういう研修、サービスを提供していくかを考える施設が伸びています。また、人材育成は継続です、この一年間は80点です。これをどう継続して90・100点へ近づけていくかが今後の課題でもあります。また、陰ながらご支援させていただきたいと思います。

【江尻】意識付けや動機づけについて、講演会を聞いたくらいでは意識や行動は変わらない。意識や行動は習慣であり継続した取り組みが必要です。ＯＪＴ等のトレーニングを通して意欲ややりがい、問題解決能力の向上が上げられます。しかし、問題解決の為にはそもそも、課題を発見する力が必要で、発見→気づき→計画の流れであり、Plan→Do→check→actionのサイクルを回しながら検証することが必要です。

沖縄県民生委員児童委員協議会 新会長に藏當氏就任

去年十一月の民生委員児童委員の一斉改選に伴い、県民児協の役員改選が十二月二十日に行われました。

新しい県民児協の正副会長は以下の皆さんです。

会長
藏當 博文 氏

副会長
長堂タツ子 氏
我部 政義 氏
糸嶺 雄介 氏
呉屋 影正 氏

ホントにおすすめの本 ～ライブラリー新刊紹介～

『雨のち曇り、そして晴れ 障害を生きる13の物語』

障害のある人や、障害のある人とともに歩む人の「生活」とはどのようなものでしょうか。

「ある日突然身体の自由を奪われた若者」や「障害をもって生まれた娘を持つ親」、障害があってはじめてわかる大変なことや、人一倍幸せを感じることなど。この本には障害とともに生きる13人の体験記が自らの言葉で綴られています。

身体が不自由な方でも読みやすいように、字の大きさや紙の質感など細部にわたり工夫が凝らされた暖かいブックデザインにも注目です。

編　者：社会福祉法人　NHK厚生文化事業団
発　行：日本放送出版協会（NHK出版）
発行日：2010年８月　第１刷発行
定　価：1,400円+税

寄付・寄贈者芳名（12月23日～2月7日）

- 沖縄県立那覇高等学校　様
- 外間　邦子　様
- 比嘉　君子　様
- ㈳沖縄県軍用地等地主会連合会　様
- ㈳那覇法人会　様
- ライスセンターラック　様
- 吉濱　實宏　様
- 沖縄食糧㈱　様
- 住友生命保険相互会社沖縄支社　様

「芸能の夕べ」へのご協力ありがとうございました

去った2月20に行われた「第37回芸能の夕べ」は、多くの皆様のご理解・ご協力により成功裡に終了いたしました。本公演の収益金は、本県の社会福祉の推進のために大切に使わせていただきます。

表紙の写真

作品名「愛情たっぷり」

撮影者　川崎 吉正 氏

かりゆし美術展で最優秀賞に輝いた川崎さんの作品は、アカショウビンの撮影が上手くいかず、落ち込んでいる時に偶然メジロが巣を作り、産卵しているのを見つけ、親鳥が雛に餌を与える瞬間、木洩れ日が当たるのを待ってシャッターを切ったとのこと。かりゆし長寿大学校では趣味の大切さを実感するとともに、いい写真は注意深く観察する力と楽しみながら撮ることから生まれるとして、写真に対する姿勢が大きく変化したとのことです。

編集後記

先日行われた、第1回沖縄県ペタンク選手権大会に参加しました。高齢者の気迫と技術に完敗でした。（あ）